

西淀川開きとり調査(福)

一九八〇年四月二十九日

・弁護団の弁護士は津留崎です。私が連絡役になりました。西淀川の歴史を語る会というところ、いままで榎島と大和田でやはりまうと同じようにまうからおいでの方に、西淀川の歴史がどういうふうに変わってきたか、主に公害関係で昔の状態といまの状態というところをゆだね話ししてもらおう機会を設けるわけです。福が

まうおいでの学友の先生方から自己紹介をしていただきたいと思います。それから皆さん方にも一人一人お名前とかお年とかを話していただきます。よろしくお願いたします。

・関西大学の小山といます。弁護士の先生方がまうの会の皆さん方と一緒に公害訴訟をなすっております。やはり裁判にどうしても勝たなければならぬ。そのためにはいろんなことを調べないといかんわけですが、特に西淀川の皆さんがお生まれになり、して戦後まうとこらわの間にはどういったのか、もともとはこうだったんだが、こういふふうになつてきたというお話を聞きます。まうの歴史なども、まうに免れたいしともうこと、裁判の上でお役にまつようにしたい、かように考えっております。

思っています。まわし最初は、お名義所、お年、それから、いつからここに
お住みになられたか、どんなお仕事なされたか、一人一人お聞きしよ
うと思っておりますので、よろしくお願ひしたいと思います。

・お上ごごいいます。この土地で生まれて五十四年、五十四歳
です。淀川製鋼工作課に終戦から十九年間勤めました。
戦時中は棒釣の日を造船で。うちの商売は、大体、行商
なたいなもんですな。

何の行商をなさった。

やっぱり魚とか貝とかね。

お父さんとか、おじいさんね。

・そうです。

・私は大野やけども、大野の隣の大和田ちやうとこ。大野
町のうちでも、土地は大和田の土地でしこん、昔は、大和田に

家は何ほもおまへなんだ。わし、現在七十五歳。三十八年生
まわ。 高松秀吉。

お仕事は何をなさった、おられたんですか。

まあ大体行商ですわ。行商のないときは会社やとかいろ
いろ……大野で生まれて、九歳のとき、福へ来ました、それ
からずっと福で育つてます。

福というのは非常ににぎやかな町だったんですか。

・いえ、福は昔は五十軒ぐらいしかありません。

・北村浅男。満四十九歳です。職業は、現在は鮮魚貝の行商
です。

おうちが、とまうらうらうの商売と。

・ここに生まれて、ここに育つて、父は昔は時分は白屋ですわ。
魚の加工とか、行商もやり、まにまにの海と川でとれた魚

魚貝も行商したり、おいいさんは漁場だった点も仲買
してました。若い時分、終戦当時は、私は主に行商をやっ
てました。その間大阪沿岸で漁業が不振になってしまし
たため、ここでも漁業がもうでけんというところも、大阪の水産
の方のなにか認めて、漁業補償というのが下がりましたため
あれも転職として、いろんな方面の仕事に転職せざるを得ん
ようになりまして、十四五年ぐらい空ぶがぶりまして、現在
また行商に戻ってまんわんけど、
どういう仕事。

・いわゆるアムコいうことや、日雇いですが、やはり若い時分に非
常に差別を受けましたや。この土地は漁師町で柄が悪いで
しょう。環境もあんまりええところではなかった。そこで履歴
書持って就職を会社に頼みに行きますしやる。そんな場合、
福岡在住いうだけでこれですや。そういう差別は確かに受
けました。だから、天秤がフいで見売りとかが、そういう行商の
方に行かざるを得んというふうな形や。仕事いうことも、
ほとんど一時的、日雇い程度や。時期的に行商に行ったり
や。だから、仕事で安定した人は、十一年間自主製作所の上
水道、下水道のポンプのとリつけ。大阪の枚方の杜野浄水場
の事とつけな人がした。

・福岡の岡前敏雄です。六十二歳。

リつからここにお住いですか。

・昭和三十三年。生まれは神戸。

職業。

無職。

三十二年当時は。

・二十二年も前は建築。その前は船員。

・私は稀斎幾次郎といいますが。七十一歳です。もしは福岡からや、こまきをした。後二十五年くらいと所ですから、昭和二十五年か六年くらいですや。建築大工。現在はもうやっつていませ入ですけど。

二十五年ほど前、福にお越しになったんですか。

・大野へ来ました。

・矢野龍吉、八十歳。漁師でした。仲社もした。舟頭。ダンベという舟な。

・ダンベ乗り。

ダンベっていつのは？

・音、舟で運搬してたんです。舟から工場へ荷物揚げにはりました。

田平能やな。

・漁師から兵隊、それから仲社、とかで田平に乗って、それから精米所へ行く……楽な仕事、一つもあらへん。生まれはどこのですか。

・大野。

いまでも大野？

・うん、いまでも大野。

・塚ロアキエ、六十一歳。大野が生まれて、おなごやから男の人おたいに仕事、いろいろと別にお。

大野が生まれて福へ来らめた？

・いえ。

大野が生まれて、大野が結婚して……。

・どうどう、大野同士結婚してか。

結婚した先は何を存す、としました。

学校上がったから結婚するまで、シンンしてました。戦争でしばらくシンンの仕事はなかって、戦争が済んでほろぼろ仕事が出たから、何年かおまじ仕事してました。家ばかりで、どこにもおこません。

・松本いちご。数えて七十五か。明治三十九年。大野生まれ。

・おれ、とのおままだ大野でお住い。

・はい。うちの主人は漁業をやりました。

・片瀬藤栄。七十歳です。白島で生まれ、大野で暮らしています。うちは、私が嫁いだ先は百姓でした。百姓がでかんようになつてから大阪製鋼へ戦時中まで行って、それから行商に変わりました。

行商と申しますと、ヤッパリお魚ですが。

・魚や、まるが屋敷たいにいろいろ車で行つてました。

・松浦泉。地の卵々。

・福で生まれ、福で……。

・年はちようど天皇陛下と同じ……。

七十九。

・いやいや、同じ日にちでんめん。(笑) 明治四十年四月二十九日生まれ。キョウでちようど満七十三歳。

お仕事、何ですか。

・仕事は、二、三年うち、と夫の公に行つて、それから帰るとか、大阪製鋼。いまだことを大阪製鋼になつてますけども、大野の人々もご存じのとおり、さるる左延工場としてきて、その時分から行って、大阪製鋼に変わりましたん。

松浦さんは、小学校出て二三年奉公に行くと、それから帰ってきて、その高石の工場へ行かれたわけですが。

このときに、大きくなってから、やめられ、これでは生活が安定したと思ふ間もなしにストライキが起つてしまったんや。その状態になつて十四年にその間になつてしまいました。

大正十四年。

あなたは何年ごろやったかな。それから十四年間勤めてんのかから大分……もちろん昭和の時代やと思ふ。

昭和ですか。もう大阪製鋼ですか。

そう、その時はもう大阪製鋼になつてました。

大阪製鋼のストライキで首になつたんですか。

そうごんぬん。それから間なしに、いまの日本化学、あの時ははたしか伊藤硫曹いうて、そこにも働き、最後は古川で

二十三年間。その時々の仕事ぶり

一にも二にも朝鮮戦争の最中で忙しい最中や。神武天皇開闢以来の大景気が来る。そろそろ相当なガスや。それが証拠が宮さん前の木が全部枯れてしもうた。

とこの木？

お宮さんの大きくなつたノキが枯れてしもうた。……
二つの話ですが。

・そろそろあ後でゆっくり。(笑)

(テープ転換)

・中尾ヤスエ。四十七歳。福生まの福育ち。

何をしてはつたか。

・何もしてないよ。

結婚するまで。

何もしてないよ。

ご主人のお仕事は。

主人は会社行きよ。

戦後、さうも語りましたけど、煙が出た木が枯れたり、さうい
うのはいつごろから顕著になったか、どこの工場の煙が原因になっ
たかというような話は一番大事なことなんです。さういうこと
と後でまた聞かせてもらいましょう。具体的に、木が枯れたとか
液溜物がないとか、白粉が喘息が起ったんやとか……
それがいづつござやという話をお聞かせ願いたいんです。それまでに
昔はどんなだったという話も聞かせてもらいたい。それを聞かせ
てもいいよ、そこが変なところ、ようならたんだ要なたんかという
ところが大事なことなんですよ。

さう松さんなんかは大野、大和田ですんやな。福にもしゅらさうお越
しになつた。

福は、九歳のときからずうといまんねん。

福の近辺はどんな様子。九歳、十歳という小学校に行かかど、
たんやから記憶があるわけですか。大体そのころは大正ですか。
さうですか。大正ですか。福は、全部入めて五十軒ぐらいや
たと思いまんねん。

どこの辺に家があつたんですか。

（福）大体四十三号線から手前百メートルから大野川沿いにず
とね。

空襲で燃えたんですか。

（福）空襲は、福岡では一軒だけ。

（地図上に家の並んでいた地域を示す）

・百川鋼業やと淀川製鋼やとかいうのは皆、キキがおまして

ん。ヨシ。

・カヤとかツシ。現在は岨島やけど、ヒエが生えたらいい
ぞや。だから、その人の話のには漁師ヒエツシ。

・あの公園のときも、お話をよましこん。

漁師の人がここにおって、五十軒くらい。

・大野川に船をつけてみた。

・この舟はどこの船とりに行きます。

・大阪湾。

・いまの大阪製鋼と淀川製鋼の間に水門ができて、こ
から出ていって大阪湾へ。

・どういう魚をとられたんか……

・魚はいろいろあります。ボラ、セイゴ、スズキ、タシ、ヤコ……

・水のエエときにはいろいろにとれました。

・赤貝から河でもとれた。

・エビもとれたし、それから、ゴシの漁師がおまんわん。と

れは貝とる専門だんわん。それから、普通の細で……

しこる人は魚とる人だんわん。

・うたせ細とか、はえなや、それから貝類はゴシ。

ゴシ……

鉄のつめが櫛のようについで、後ろに細袋がついてる。ここ

に海の水の砂が入るわけです。入ったら中におる貝をんかは

細にはすまっつて、この袋口をぐーっと引張るわけです。昔

は動力がないから足でくろ踏んでか、これを揚げてきた

らるころとかおまんわんははねて、貝類を選別する。

それから定置網、ここらはつな網言うてまんわんわけ……

・定置網は大鯨が多いわ。

・大野は ハイカラ 網言ちはったな。

・代表的なのは、けえなや。そかとキんちやく網。魚群を見つけたら網をいれて、稚ごとの魚群を遠巻きにして、網の底を引、張を締めまんねな。とれど、あか、キんちやくというねな。

ゴジ、こどう書くんじしような。

・五指と違いますが。

・つめびなにするか、うな。その意味か。

田んぼなんかはながたですか。

・ありました。

農業もや、とられた。半農半漁な形だ。

・そうです。

・吾はほとんど農業ですわ。農業がたか、うな、とれや、こた。

・古川の所もキ、と畑やった。

・レンコン畑

レンコン畑というんですか。

・畑。この土地ではレンコン畑というふうに言うてましたけどな。

この辺もキ、とレンコン畑が多かったな。

・ハス池ですか。

・池や言うけど、あの池が小さいから、レンコン、畑言うけどもな。

・池やったら水が多いけども……。

・奥な芋米というのは米なんですか。

・田んぼは水田やな。

・そうそう、水田ですわ。

福は五十軒ぐらいやけど、大野は何軒ぐらいあたん。

大野はあの時分、福よか大分多かったな。

いまの古川農業

なんかは皆又の土地を買った……

・新渡川改修工事されるまで、たしか伝法町は福村ですよ。

・もしら大野におられた時は、大糸田の学校へ行くと、たんやけいな。

漁師が五十軒ですよ。

・いや、全部で人数がそんなもんですよ。

大野の方が大きかったわけ。

・大野は福の半分しかおまへなんだ。昔は。

・福が五十軒ほどのもんですけど、まだ大野の方が多かった。大野は自島も続いてましたやろ。だから、人数は福より大分多うおました。道も大野は一本道ですよわん。いまは市役所道ができましたけど。土地は大糸田町になったあつても、ハヤマのおうちさんらの親の家は皆大野になったあんわん。

福硫曹という会社がございますが、

・あめは、いまの日本化学ですよ。

・いまの日本化学の前が福硫曹や。

その前が伊藤硫曹やろ。

・もしら行商に行った時分は、一番電車経っている間にばしと煙出しまんわん。

その煙でもなりました。何か被害なたいなやが……

・その煙が地這うといまんわん。もしら経つて問たまらへんし、こっちへ煙よけて下がりまんわん。

その会社へ文句言いにいったことありますや。

・行きましたよ。行きましたって、こたえしまへんわん。

この煙の害ですよ。

・あめは、もしら七十四年、五十九年、六十年、六十二年、

の五年までの間だんな。

・いや、もつと所や。もつとまっつと所や。

戦争の前にや、ほりありましたやろ。

・戦争の前や。

・先生、その公害がまつくる所の問題で、町の生活様態ももう少
し……たとえ水屋ということでも、その生活は……から全部、水もも
らったとか。

・井戸は……

・皆、井戸もたよ。

・私たちの十三、三のころや。たら、この大野川で汲水も皆でま
ました。そやけど、飲め水は、水屋いうと売りにまさんねん。
水屋、というのは福にもあつたし、大野にもあつたん。

・いや、水屋は福だけ。

・大野川を渡ると、まようは大野だけ、まようは福だけいうと困
るまほろ。大きな瓶置いといて、一ッ河ちうだい、二ッ河をよ
うだいいうと買うときますわん。

小林さんが水屋さんやね、小林さんのと二へんは舟から水を担って
くまわけ。それど小林さんのこの買いに行くわけ。

・いえ、小林さんが舟に積んどくるの。まようは大野の番、今
度は福と、大野と福とかかりべんに水が切かん程度に小林
さんが売りに来るわけです。

値段はどのくらいしとったの。

・あの時、三銭ぐらいでしたな。

・一ッ河三銭やった。それは本当に飲め水だけ、水道が引け
るままでのことや。

水道、いつできました。知らでしよう。

・もちろん昭和。

・大正時代は遠い昔だが、もし昭和六年生まれやけど、九歳まで
はもう蛇口がありましたね。

・買水した人は大正です。水道が引けたんは昭和になっ
たから。

・昔は悲惨なもんどした。むしろ大野の生まれやけど、大野に
おる時分、まだ九つでっしやる。大野河のおじいさんのうち
は大さなる姓やっこましてん。その時ヨシが生えたところ
を買取って、アルカリのうができたんだ。

・現在の帝国化学ですわ。

・そのアルカリのうがでできたんで、赤い廃水を流すんです。

むしろ子供の時分に、親のうちの舟に乗って通ると、ボラ
がぼーんと飛んで上がりまぬん。そんなに魚、ようけおっ

たんですわ。それかもう一年たたんうちに……うちの親
、うちには綿もつくりや、いろいろ作物つくってましてん。大根で
も何でも。全部その糞水でできんようになった。こしもうた。

二つ二つの話ですわ。

・大正の初めですわ。

明治の終わり、大正の始まりころ。

・さうです。

二つ二つの話ですわ。

・いえいえ、さかには西島と大野の間にまだ舟がまきまぬん。小
さい小川があつたんだ。百姓の舟が通れるだけの川があつた。
そのアルカリ工場いうのはどこにあつたんですわ。

（地図をかん）

その当時は百姓が会社へ交渉に行きません。二人連れ
かたご。まぐに、この人らがやがてしにと言ったまきさんかん
いうこそ音の敵の察に……まきさんかん。

スバルカリの話ですか。

・ええ。あと、何でござんすか。言うてくんなんいうて、もうそん
ごしまいたんやん。さういうやり方だしてん。

・古川はそんなことなかつたよ。あつらひ族連れて、男の人が
二人……

戦前どんな会社に文句を言いに行きましたか。伊藤硫黄の話を
ありましたあな。

けんご古川や。

いまのお話、もう一度おっしゃってください。会社に行つたけれども、
どうだったんですか。

うちのらのおじいさんやおばあさんが行きますやろ。百姓が
行くと、すか敵の察へ……それで、文句言いに行つ

たけへどもナムナムに済ませられさしもうたというふうなもんで、
もう土地があやになつてさしもうて、二束三文に土地を売ら
んならんようになつてさしもうた。

警察からまた所か言つてくるわけですか。

とねは、めしらす詳しうことは知らんけどな。

福の地区で言うたら、大正昭和の時代に被害を及ぼしたのは伊藤
硫黄ですか。

・伊藤硫黄と、まだ日産化学がめりましたんや。いまのこが
煖却場に日産化学がめりました。

・ほかに大阪製鋼。

・いや、とやと廿三。

・ニッパ、西風が多い人ですわ。そやど西の大野の方へ入るの煙が皆こっちへ来々んですわ。

・大阪製鋼、合同製鉄よりも、尾崎の煙がやっぱり多かったですわ。

・戦前から

・はい、昔の目録、いまの閉巻、そやから住友鋼管、旭硝子、尾崎の煙が一番多かったですわ。

大野の人とか福の人が戦前、大正とか昭和の時代に、具体的に工場に被害が及ぶという文句言いに行きた話を聞かせてください。

・古川銅業へいままうとくならは、たけども、田村人二人が矢頭にまっへ行きますわん。

おぼやちやん、幾つぐらいつとま。

昭和の初め、まっが二十三かな。

そんなことがあ、たから文句言いに行きたんですわ。

・暖になると煙出しますやろ。としたら暑いときに、開けりや煙ごませと寝らへんし、開めりや、いまのように扇

風機はないし暑うこと寝らへん。そんなことごとび重なるまますよつこに、一遍製煉に行こうやないかと。

臭いものすじかた。

・はい、臭いも。

・どういう原因でガスが出たかという事は判りませんが、あかやへん。むしろ二十三年もおつこんさかいに。

・臭いはたからやかまし、さかいに出す人ようにしますわん。

・これは酸化チタンというインドからくる鉱石みたいな原料がよまへん、そやを硫酸と熱湯を加えて、

まに臭いガスが出るわ。日中や、たら白煙が出るから、

それではなるべくとめて……

・ほんで晩に出しきんかん。

・戸閉りの後こそ中へ入ったあう。

・そんなんで何回も行きましたん。いまは隣組とかいうと、区域

がなんでっけど、そんな時分には町内だしとん。きうて行っ

たら警備隊も呼んだりしますやう。それで町世話人がやんな

を集めて、こんなことではやんなが、至しやせなみかんと、少

の金をこしらえて裁判しようかと、こうなりました。そのとき

に一日二銭おつかりへんに集めに回りまんかん。として、後

らやお金がでけて、世話人衆が裁判してくれはったんか、そ

にせめてらにまだやからなだも二なんです。(笑) お金は

集めて世話方のうちに持っこした。そしたら、えらい迷惑

をかけたというふうになつて、十二日の二十七八日になつて

お正月のにしめ代(代)いうと三円六十銭を世話方のうちに持っ

てきましたんやう。それでやんなを集めて、お救で割って……

何ぼ持っときはたか、とら、あこやかへんで。そないして

は川からは三年ほどもいらいましたわ。

・それは私も覚えてござや。親がにしめ代(代)いうと、正月になる

と古川からもらうやうなつて、お救(代)は覚えてござや。

とや、こつこつ。

・五十年前ぐらいやな。

・とやによく似た問題が福にも起すてましたん。というのは、

あこは、こ存じのとおり、鉄やら溶かしまますな。そのため

に溶鋼炉から蒸気を出しまんかん。

大阪製鋼の語ですな。

・ええ、それがために、福町にも迷惑をかかすやうな……

らに住んでる人が三年間町会委員を免除になりまして。誰かが調べたら五年間いづれともと言いましたけど。

・あれは昭和三十年ごろや。

・会社が持った人でしょうが。

・会社が金持ちだから入る人。八十銭とか一円三十銭とかいう町会委員を皆おかけして人。とかを三年とか五年とか免除になった。

・あれはこの子母屋のとキヤ。大野は一銭もくねら入ん。福はあのときにもらちはってんや。

・三十八年のとキヤ。

・福でももうて入んところが多いで。

・とんなん、誰ももうて入んや。もうても町会委員——

・さうきの三月何十銭いっつのは、一軒の家に三月何ぼももうたん。

・一軒が。

町会委員免除になった時代は。

・長らんやん、はッキリ。

・あれ、見返りに福小学校のボーロを寄付したんや。

片瀬さん、片瀬タケマツさんいづのはおじいさんと通いますか。

・あの人は警察へ呼ばれてやるは車や。私のしゃうとさんです

や。ナロ川に、悪い水出すナカリいうて交渉に行つて、引

張られやつたというこも。私は来てから聞きました。

保証されて行つたときには、もう済んでたわりですか。

それは済んでた。警察の人に来て、こんなええおじいさんや

のに、何でとウいうなにやつたんやと言われはつたというのを

聞きました。とら、ええしゃうとさんじじい。

年は五十九からいやったですが。

その所はね。

この人は大阪製煉のことについて何も言うてなかつたですか。そのとき始末のことも多分の話でなかつたかと思つておるけど。

書かされたのはよくやるな。

見たことないですか。

母屋いっつのがありますけど、いまもう孫の代になつてしまつてさうなかい。さあから水につかつて、とやからそんな人はあるかないか知りません。私来たときに、おじいさんが製煉に交渉に行つたら、製煉は盛。察へしもうて、おじいさん、盛。察に呼ばれて二日とか三日とかとめられたと。盛。察の人を二人なええ、おとなしい人やめに何でやつたんかとか言ふはつたという話は聞きました。

そのとき土地はどいふに持つておるんですか。

何ほか原。この一反にウリつくつて、この一反には所やらつくつていって、おじいさん畑はつくつてはりましたわ。

自分の土地ですか。

いえいえ、皆借り土地ですわ。

じゃ、お作じ。

うん。

福地土地を持つておられた方は。

うちらうのは大和町の土地です。私も末っ子やけども、やはり百姓手伝うてるなかいいうて、親からとんだけの土地を譲つてもさうして、私らも百姓してました。大和つくつたり、キョーリつくつたり。

大和で地主いうたり、おなだでした。

・私ら地主さんの名前前まで知りませんわ。二人は人なまらと思ん
うたら覚えてくるけども。(笑)

・福、大野いうたら、ほとんど貝市の土地譲りじゃった。

・貝市は百島。

貝市？

・貝市って細い人じゃ。

・あ、いよ尾崎に行つたはるの違うの。

・尾にもあふし、方々にあふ。四重島にもあふし。

・もう下野には貝市の土地はおまへ人で。

・福でもあへんが。

その貝市さんという人は製錬所に文句言いに行ったようなことはない
じゃ。

貝市さんは百島やさかい、別にないん違ひまんやが。そんな

聞けしませんけどな。

お金の土地が……

わが土地言つたかて、まんやが土地で——は違ひまんや。

まんやがの土地やたら、被害受けたら扱とらうこと……

そんなもん聞けしやへん。

まよりのお話で、一つは、やっぱり戦争前、昭和の初めころから被害
があつて会社へ文句も言つてきてるといふ実績を持ってるとい
ことじゃな。大事なことやと思ひますわ。そんなんにかかやらず
戦後またもう一遍やつたいうことはな。にしめ代出したんや。

公室で交渉に最初に行った人は淀川製鋼じゃ。

それはリフじろの話じゃ。

それは……公室の関係しは、これから約一年ほどたつてからで
す。

戦後の話ですわ。

・ええ。

・交渉するのは皆戦後。

戦前は古川には抗議に行きたと。それから、いま日本化学の、前に福硫曹で、その前に伊藤硫曹にも文句言いた行ったわな。そのほかにも、どっか文句言った会社、ある？。アルカリ会社も行ったよな。アルカリへは行けしまへん。アルカリは肥利会社やった。アルカリへは私ら行きまへん。

古川に抗議に行くと、警察が出てくるもの。
電話しよりまんねん。

昭和十年ぐらいになったら、会社に勤める人の住宅ができてくると思ってますわ。そういう住宅はこの近辺につくってまじんどした？。淀川製鋼の社宅がありましたやろ。それから、福の町中に

あったやろ。あめはどこの社宅やな。

北村さん、ちよっとこれに書いとくか入んか。

(地田まがへ)

あめは、もうつぶれてしもうとないけども、トウヨウカイマクの社宅やった。

戦争中ぐらいのことに行きましたよ。オハシキを敷き一軒だけ焼けたいうのは、何で一軒だけ。

あめは焼夷弾でんねん。ここの第二住宅で、東側に第一住宅がありますわ。そのの南キナの隣やな。

このあたりは空襲の被害は……

・台風どんな。水害。

・それよりも、公害で知らぬ重、三重の打撃も受けとまん
かん。ただ大気汚染の公害だけやなしに、水質汚染も、
むしろど一つの生活の糧を奪われたという被害でもや。
大阪府の水産課が認めたいうのは何年ごろやったかな、あ
れ。漁師が補償金もらいよ、たのは、いつやった。

三十八年ごろと違いましたかね。

・三十八年違うと違う。うちはもううごんぬんから、よう知って
るわ。一番後でもうたやつが四十二年。一番先にもう
うたやつ、百三十万円が三十八年くらい。

・第一室戸台風は何年でしたかな。

三十二年。

・入体あめは第一室戸台風を前後して、ぼちぼちこの目入
類が死んでいくわけ。第二室戸台風の相前後したとき
から、淀川の水質がぼちぼち悪くなったわけどんな。
具体的に、しゃっこくありませんか。

とここのは上流からの下水とか、――

(テープが転換)